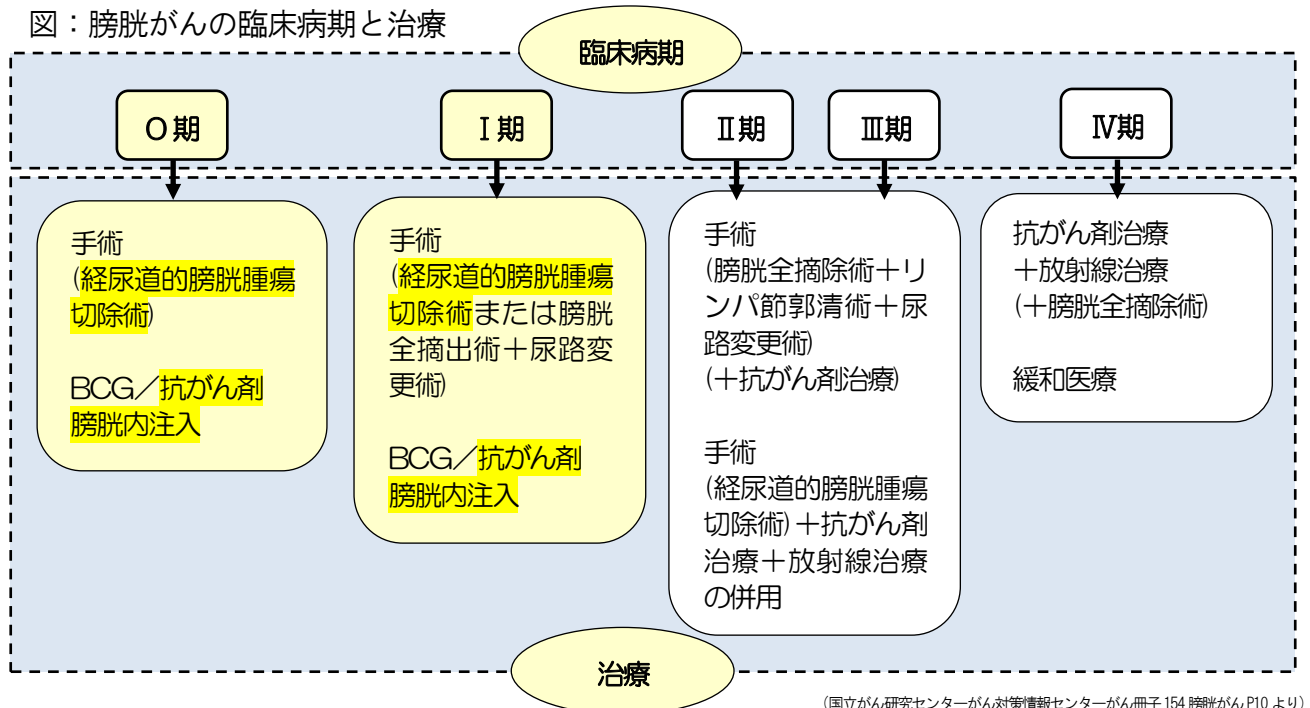


膀胱がん術後の膀胱内注入療法における 大崎市民病院泌尿器科とかかりつけ医（連携医療機関）による治療連携のご案内

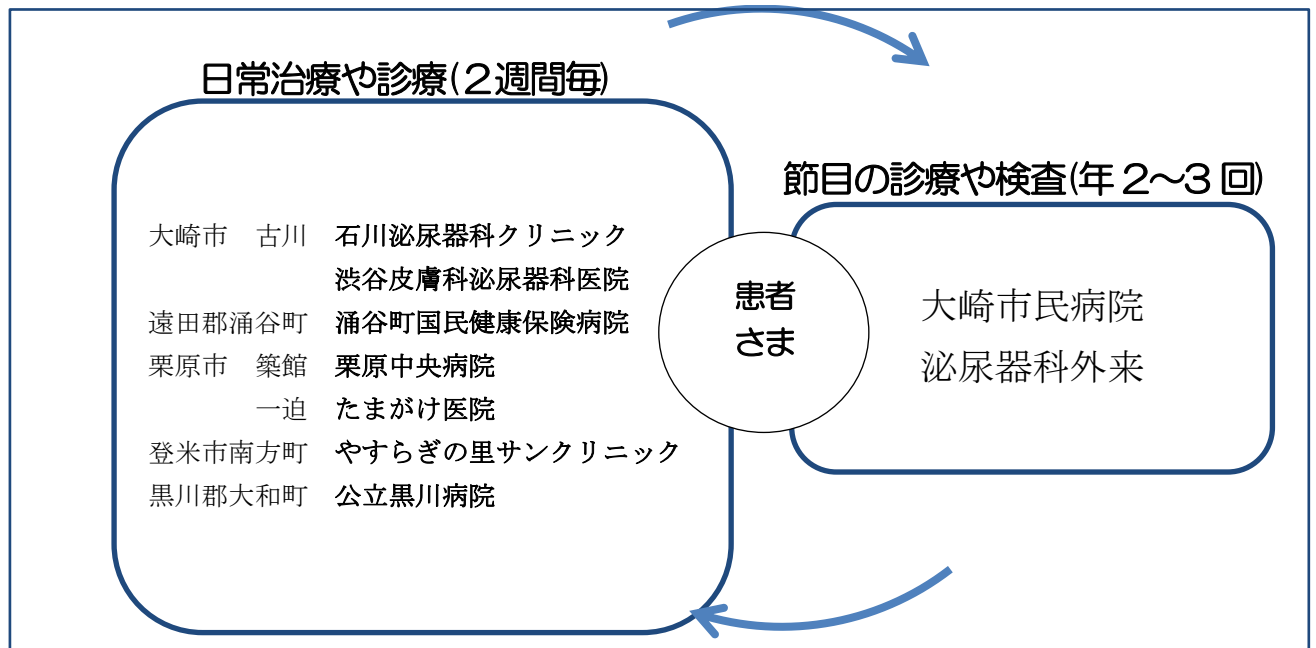
膀胱がんは、病期と異型度に基づいて治療方法が決まります。次に示すのは、膀胱がんの病期と治療方法の関係を表す図です。膀胱がんでは、手術(外科治療)、放射線治療、抗がん剤治療(化学療法)、BCG(ウシ型弱毒結核菌)あるいは**抗がん剤の膀胱内注入療法が標準的**です。

図：膀胱がんの臨床病期と治療



大崎市民病院泌尿器科では、膀胱がん術後の膀胱内注入療法において、地域の泌尿器科医の先生方と治療を共有・連携しております。

退院後は、**患者さまの通院や待ち時間の短縮**や病院間の役割分担の推進を目的に、日常治療や診療を地域の泌尿器科医の先生方(以下かかりつけ医(連携医療機関))に、節目の治療や検査を大崎市民病院泌尿器科にそれぞれ通院することをお勧めいたします。



通院治療と経過観察の仕方について

(紹介時とかかりつけ医(連携医療機関)初回受診時)

これから通院治療と経過観察の仕方についてご指導いたします。

膀胱がんの再発を予防していくことを目的に、2剤以上の抗がん剤を膀胱内に注入するMMC膀胱内注入療法を実施することが標準的な治療方法です。

治療計画は、別紙『膀胱がん術後 治療計画表(患者さん向け)』をご覧ください。

まずは、退院後、かかりつけ医(連携医療機関)を2週間毎に通院し、抗がん剤を膀胱内に注入し、再発予防と経過観察をしていきます。

診察時には、血尿・残尿感・尿をする時の強い痛みなどがある場合には教えてください。

また、副作用が強い場合や体調がすぐれない場合は、大崎市民病院泌尿器科を受診してもらうようになります。かかりつけ医(連携医療機関)が症状を記した紹介状を作成いたしますので、大崎市民病院泌尿器科を受診しましょう。

大崎市民病院泌尿器科外来には、退院後6か月までは3か月毎、その後は6か月毎に通院していただき、膀胱鏡検査やエコー検査・尿(細胞診)検査を実施し経過観察をしてまいります。

上記の症状を含め、体調がすぐれない場合はかかりつけ医(連携医療機関)を日中に受診しましょう。

夜間や時間外、休日は大崎市民病院救急外来(電話(代表):0229-23-3311)に連絡を入れましょう。

このような取り組みを行い、患者さんにとって、長い待ち時間や通院時間を短縮できるなど、負担の軽減や、ご自身の治療計画や経過の把握、連携医療機関による身近な診療による不安の解消といったメリットに繋がっていきます。

退院後は、このファイルを常に持って両方の病院を受診しましょう。

【連携医療機関の担当医の役割】かかりつけ医の役割です。

- ・治療、日常の健康管理を行います。
- ・専門的治療(大崎市民病院への受診)の必要性を判断します。
- ・風邪など一般的な病気のことやちょっとした心配事が気軽に相談できます。

【大崎市民病院泌尿器科医の役割】専門・救急の役割です。

- ・定期的な診療・検査を行い、再発を予防します。
- ・専門的な検査・診察・手術を行います。
- ・緊急を要する場合、必要な対応を行います。(夜間・休日における救急診療の実施)

大崎市民病院☑欄

- ☐ 連携ファイル準備(P1 当該説明用紙(両面印刷) P2 治療計画に関する説明書兼同意書 P3 治療計画書(両面印刷))
- ☐ 担当医とP2 治療計画書を作成。■緑色の予定日と患者さん氏名と患者さん情報②を記入しスキャン。
- ☐ 当該説明用紙と次項の「患者さん向け説明書」を活用し連携パスの説明しサインをもらう。連携ファイルを患者さんに交付。
- ☐ 電カル処置画面コスト入力。連携医療機関初回受診案内と当院次回外来日指導。